

みんなで語る会報告書

開催日時 平成25年8月2日(金) (19時00分～20時30分)
開催場所 山川図書館(大成校区)
参加者数 市民…32人
市職員…市長他12人

総計45名

会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 意見交換
- 4 閉会

意見交換内容

【市民】

・畑の土手に電柱が建っているが、電柱を設置したことによるお金は市に入ることである。畑の土手の草は市民である自分たちが草刈りをしているので、市民にもそのことを周知して欲しい。お金がどうのこうのということではなく、一筆、ありがとうございますとでも書いて気持ちを表して欲しい。

・女性消防隊の活動をしているが、もう少し縦横のつながりをもう少し良くして防災や防火に極力力を入れてもらいたい。災害が起きて一番困るのは市民であるしっかりしてもらいたい。

<総務部長>

・市有地や市道内に立っている電柱については、道路占用使用料が九州電力などから市に入っている。

<農政課長>

・耕地林務課の所管になるが、畑干の圃場内を中心に農地水環境整備事業というものに取り組んでいる。地域ではこれまでもボランティアで農地の草払いや市道等の草払いもやっていただいているが、それに対し国・県・市の方から油代等に使っていただくということで助成をしている。今お話にあったのは皆さんが土手の草払い等に取り組んでいただいていることに対し、市からの感謝の言葉など必要ではないかとのことであり、今後、館長さん方を通じて地域の環境整備のお願いをする中で日頃の取り組みに対し感謝の意を伝えていきたい。

<総務部長>

・女性消防隊には国・県での活動のほかコミュニティ助成事業にもご尽力いただき、女性消防隊の備品であるとか幼稚園・保育園の活動にも取り組んでいただけて大変感謝している。ご意見のありました防災・防火に対応する組織上の縦の繋がり横のつながりにつきましては、私どもも努力は行なっているつもりではあるが、そういった面はあるのかもしれない。素直にご意見を受けさせていただきます、できるところから務めて行きたいと思っているのでご理解いただきたい。

<市長>

・現在、女性消防隊が一生懸命に頑張っている。今年全国大会にも出場することになっており、みんなで協力してつながりを作りながら活動をしやすい環境を作っていくことは大切であるので、いただいたご意見を今後の消防団活動・消防行政に生かしていきたい。

【市民】

・成川の人口動態を見ると20年後は惨たんたる思いがする。少子化を防ぐ、子育てを支援するためには親の支援ということだと思ふ。まず親の働くところがないといけない。現在、指宿のハロー

ワークの有効求人倍率は正規・非正規でどのくらいか。また、企業誘致をする考えはないか。

・8月号の広報いぶすきに6次産業を推進するということが掲載されていた。この構想はどのようなものを6次産業として扱うのか。6次産業でも雇用は創出されるだろうが、周年正規で雇えるのか併せて答えて欲しい。

<総務部長>

・有効求人倍率については、申し訳ないが今数字を持ち合せていない。市としても定住促進・企業誘致については十分認識しているが、現在の社会情勢の中ではなかなか具体的に大きな企業誘致をということはできていない。少子高齢化については大成校区だけでなく、市内全域で開催している「みんなで語る会」のなかでもいろいろとご意見をいただいている。そういった意味でも、この問題については市としても地域の皆さんと一緒に、今後取り組んでいかなければならないと認識している。

<農政部長>

・指宿市内の農業については、畑かんの整備が終わってから良好な生産体制ができている。ただ少子化等により担い手不足があり、新規就農者など担い手の支援を行っている。生産から加工をして販売までという6次産業化の推進としては、先進地研修に対する補助やセミナーなどを開催することとしている。

【市民】

・指宿の求人倍率の詳細な数値は分かっていないが指宿の求人倍率は高い。しかし、パートの求人が多いから求人倍率が高いのであって、決して堅実な姿ではない。

<市長>

・働ける場、若者が定着できるような企業をどう育てるか。大企業等に働き掛けて企業誘致をするということも大事であるが、県内他市ではいくつかの大企業が撤退してしまい、働いていた方はもちろん中心街にも大変な影響があったと聞いている。そういう意味で、6次産業化を含め地場産業をどう育てるかも必要な取り組みだと思う。

【市民】

・国がやろうとしていることと地方自治体ができることは連動しているが、市の広報誌には国政のことについて全然書いていない。人件費をどんどん削減しているということや国保会計が赤字であるということもおかしいと感じる。地方自治体の予算が、ここ10年ぐらいどんどん減らされていくとか国政については少しも広報に書いていない。アベノミクスで物価は上がるが賃金はぜんぜん上がらない。若い人は、ほとんどパートで正社員が少ない、正社員から非正規に切り替えることばかりやっている。地域は中小業者ばかりで正社員を雇えるだけのお金が出せないというのもある。憲法改正や消費税増税などについても触れられていない。

<市長>

・社会課題、現在の課題、国と地方の流れ、関係というのも市民にきちんと知らせながら、企業創出なり雇用確保というものを図るべきではないかということだと思う。市の広報の役割もありできるだけ身近な情報や話題を乗せるという一つの目的があるかもしれない。しかし全体的な国の流れとか、地方交付税が減らされる、地方の財政も非常に危機的である、そういうもの等も積極的に広報紙に載せながら、国にどういう課題があって指宿でどうすべきなのか、地域でどうすべきなのかという流れも大切にしてほしいというご意見だと思う。

【市民】

・憲法を遵守して働くことが、地方の住民の暮らしと福祉を充実させる事に繋がるという考え方が地方公務員のみに少ないと思う。予備校に通って、やっと地方公務員になって、やっと安定した職業につけたというところから始まっているような気がしてならない。

<市長>

・市民の安全・安心・福祉向上のために、市役所は市民に役立つ所として頑張ろうということである努力をしている。そういうご意見を持っている方もいらっしゃるということで今日は意見をいただいたので、尚一層努力していきたい。

【市民】

・山川中で草刈りをするときフェンスの取り付けが地面に近すぎるため作業がしにくい、フェンスの取り付けをするときはある程度地面から離していれば草刈りがしやすい。どこの公共施設でもそうだが、整備をする際に業者任せにせずによく考えてもらいたい。

<教育部長>

・日頃、学校の環境整備に取り組んでいただきありがたいと思う。今後、フェンスの設置などの整備を行う際は、ご指摘のことを考えて実施したい。

【市民】

・健康マイレージに市の予算はいくら組んでいるのか。
・先だっても河川作業があり、健康マイレージカードを持っていくように言ったがもうひとつ人気がない。いくら予算か分からないが、予算に見合う効果があるのか。

<市長>

・私が市長に就任した当時、国民健康保険特別会計の予算は72億円程度だったが、今は79億円程度になりここ3～4年のうちに7億円ぐら増えている。もし増えなかったとしたら、皆さんの税金からつぎ込むお金は少なくて済む、そうすれば別の事業にそのお金は回すことができる。一般会計の財政調整基金から1億円2億円というお金を国保の赤字補てんのためにつぎ込んでいる。これを無くするために、健康について市民が一緒になって考えようということで、健康のまちづくり、マイレージ制度に取り組んだ理由である。できるだけイベントとか集落行事に参加していただいて、それをポイントとして貯めて、貯まったらいろいろな商品等が当たるということで健康に興味を持ってもらうというのがマイレージ制度である。

<総務部長>

・マイレージ制度の予算は500万円程度である。

<市長>

・健康づくりを行うために集落等でみんなが集まって身近なところにゲートボールなどができる運動広場等を作るような補助事業をやっている。例えば2つの集落で共同して運動広場を作るとすると、1集落当たり30万円の補助なので2集落で60万円の補助となる。また、広場の周りに歩けるようなコースを作っていただけたらありがたいし、集まった方々で健康づくりの勉強会をしていただけたらと思う。これまでなかなか運動をしなかった、遠くまで行かないと運動の機会に恵まれなかった人たちが、近くで運動ができるようになることによって健康になっていただいて、医療費が縮減され市の財政を立て直そうというのがこの事業の一つの趣旨でもある。1回目の抽選があったあと、各集落での取り組みを広くPRして事業の推進を図りたい。

<総務部長>

・健康マイレージカードの1回目の抽選を8月15日に締め切って実施しようとしている。抽選については4カ月に1回実施することとしている。マイレージカードの健康ポイントについては、市と集落の方で取り決めたイベント等に参加することによって2ポイント獲得してもらい、その他のポイントについては自己申告等により30ポイントを獲得して応募していただく仕組みになっている。ぜひ健康づくりのためにご応募いただきたい。また、いただいたご意見など参考にして来年度の事業に繋げていきたい。

【市民】

・市役所に行くとき非常によく対応してくれる。いやな思いをしたことは一回もないが、道路整備などいろいろな要望を出したときにやってくれない理由を答えてくれない。理由を教えるようにしてほしい。

・成川の道路がデコボコしているところでお婆さんが転んで救急車で運ばれた。そこを山川地域振興課と見に行ったが、今日昨日段差ができたのではなく以前からの懸案事項だったようである。点検をきちんとしてほしい。それから成川の旧国道226号のところの横断歩道やセンターラインがほとんどが見えにくくなっている。以前から市にお願いをしているが、やってくれないし返事も来な

い。何とか対応して欲しい。

<市長>

・いろいろな申請や要望を行った時に、市からの返事がないとのことで大変申し訳ない。今後そのようなことがないようにしたい。今回、いろいろなご意見をいただいた件については部課長に現場を確認し報告したいと思う。区長さん集落長さん方が地域の声はよく分かると思うので、これからも市役所にぜひお知らせいただきたい。

<総務部長>

・横断歩道やセンターラインをきちんと引いて欲しいという要望がたくさんあり、それに応えていくべきだと思っている。お金のことを言うのも恐縮であるが、各年度・年度の予算というものがありその中で対応していくのが原則である。今年度はガードレールや反射鏡などの交通安全施設の予算が700万円、その他にラインだけを引く予算として例年50万円のところを200万円に増額している。安心安全ということは大切であるので、皆さんからの要望等を参考にして少しでもカバーできればと考えている。できるだけ早い予算執行に努めたい。また、要望したけれども答えが無いということで申し訳なく思っている。担当としても予算があって、すぐ対応できれば返事ができたと思うが、予算等の関係があって順番的にもあとになるということがあって、もしかすると申し出づらくてご連絡をしなかったということはあったのかもしれない、それについてはお詫び申し上げたい。いずれにしても予算と順番というのが出てくるので、私どもも予算の確保など皆さんの要望に少しでも応えられるように努力していきたいのでご理解いただきたい。

<土木課長>

・各地区から道路整備の要望が数多く出されており、現在、250路線程度の整備計画を持っている。市内全域道路の老朽化が進んでおり、市としても道路の安心安全を図るべく努力しているが対策が後手に回っている現状である。成川の道路でお婆さんがケガをされたとの報告も受けており、今後、道路の点検パトロールを行いながらできるだけ早く対応していきたい。また、要望に対する回答がないとのことについては、要望が多く実施時期を明確に答えられず報告ができない状態であり、今後はできるだけ要望に答えていきたいのでご理解いただきたい。

【市民】

・大山区では昨年4月から市の職員がボランティア会というのを作っていただいた。その後、輪が広がり農協の職員と一緒に区が困っている事などのお手伝いをいただいている。地域担当職員制度を市として考えているのであれば、いつ頃どのように進めるのか。私としては地域担当職員というのが必要か疑問である。地域の職員が自分の地域を活性化させるためにボランティア会等を作って、自分の地域は地域で守りましょうという考え方が必要だと思う。大山区のボランティア会については部課長会などで、このような取り組みをしている地域があることを周知して欲しい。

<市長>

・地域の中で市の職員が貢献をする場が必要だと思う。他の地域でも市の職員が祭とか地域の行事に出てきてくれてうれしいということを知り、特に大山区の職員が一所懸命やってくれているのをお聞きし、ここの取り組みがどんどん広がってほしいと思う。集落によっては、若手は市の職員しかいないところもある。その人たちが頑張ってくれないとうちの集落はどうなるのかという声もお聞きする。市役所職員一人ひとりが地域というものをどうするのか深く考えて、地域で頑張る職員になってほしいという想いであるので、いろいろな意見や頑張っている職員がいたらどんどん教えて欲しい。そういう職員が増えることを願っている。

【市民】

・来年11月の文化の日前後に大成小学校の100周年記念事業が行なわれる。事業の成功のポイントは寄付金が多いか少ないかである。関東や関西、鹿児島市内などの各大山会に寄付を呼びかけようと考えているが、人材教育及び文化教育の促進ということでふるさと納税に該当し大成小学校の100周年記念事業に直接還元できるということであれば、各大山会などからのふるさと納税が何倍も増えると思う。記念事業にふるさと納税を直接還元できるのか教えて欲しい。

・指宿は観光事業が大きなポイントである。先般、都会の子供たちを長崎鼻に案内したところセメ

ントなど何十年も経ち朽ち果てているため危なかった。子供たちは非常に喜んでおり、ここが鉄柵を設けるなどきれいに整備されれば観光事業の一旦として寄与するので補修はできないか。新規事業としては、鰻池の周囲4kmに遊歩道を設置してはどうか。また、長崎鼻には公園も海も空もあるので企業を誘致して海底公園を作ってはどうか。龍宮神社もあるので竜宮伝説を活かしたガラス張りの海底公園を造れば、修学旅行など全国から観光客が来ると思う。

<市長>

・思い切った仕掛けが必要だと思う。本当にユニークな発想をいただき、実現できたらいいなと思ったところである。一つの例を挙げていただいたが、もう少し見方を変えて独創的な発想で観光というものを本当に考えて欲しいという意見だと思う。

<総務部長>

・平成24年度のふるさと納税の実績は、58人の市内出身の方から総額約687万円のふるさと納税をいただいている。平成21年～23年度においても650万円前後の納税をいただいているが、そのお金を市は基金に積んでおり、平成24年度は小中学校の図書室へのエアコン設置などに充てさせていただいた。今年については山川中学校のグランドピアノの購入、開聞体育館のランニングマシンの購入、ヘルシーランドの遊具の改修に充てさせていただいている。ご提案のあった大成小学校の100周年記念事業の寄付金とできないかとのことであるが、ふるさと納税は市の予算の中で受け入れているので、100周年記念事業への寄付は直接PTAなどの実行委員会で受け入れていただきたいと思う。

<産業振興部長>

・九州新幹線が全線開業し観光特急たまたま箱等により指宿への観光客が増えており、その効果を持続発展することを目的に、市では今年3月に指宿市の観光戦略ビジョンを策定している。戦略ビジョンのコンセプトとしては「砂蒸しだけじゃない!!美来(みらい)型湯治場いぶすき」ということで、指宿の観光といえば何と言っても砂むしであるが、砂むし以外にも優れた観光素材がたくさんあるということで、今後は砂むし自体に新たな付加価値を見いだしていくとともに豊かな温泉や美しい自然、おいしい食、ホスピタリティあふれる人などの魅力を有機的に組み合わせた新たな観光プランの開発・充実を図り指宿を訪れた人が心も体も健康できれいになる街づくりを目指すということで進めている。長崎鼻も重要な観光資源の一つということで県の魅力ある整備事業で散策道路やあずま屋等の整備を行っている。地域の資源を大切にしながら暖かく観光客を迎える努力がリピーターを増やしていくものと思うので、ご提言をいただいたことも参考にしながら今後とも観光振興に努めていきたい。

【市民】

・地域女性連からの出発で高齢者サロンをボランティアとしてやっている。介護保険を少しでも使わずに済むようにということで始めた。お年寄り自分で歩いて来れる所ならいけるという感じで、今、自分の集落内でやっている。成川でも4、5集落の人が集まってくる。2人でやっているためマンネリ化することもあるが、地域包括センターからいろいろとヒントをいただきながら年間500円の会費で実施している。お金をくださいとは言わないが、体操など色々な方に来ていただいたときにお礼をしなければならぬので今後も市からいろいろとヒントをいただきたい。

<健康福祉部長>

・自分たちだけで立ち上げてやっているところが市内に10ヶ所あり、その内に成川が8ヶ所ある。この事業はボランティアの方と繋がっている良い事業あり、昨年、鰻区と開聞の上野区で市と一緒に事業を始めている。今年は利永区等でも取り組んでいる。また、健康と高齢者サロンを結びつけようということで、現在、大牟礼と摺ヶ浜地区で体操を主体にしたモデル事業にも取り組んでいる。これからも、こういうサロンを増やしていこうということで高齢者元気度アップポイント事業も開始し、参加した高齢者にポイントを付けて50ポイントになったら商工会議所・商工会の商品券をお渡しすることとした。これからの社会は地域の中でこのような取り組みが育つことが大切だと思うので、相談したいことがありましたら包括支援センターや保健センターなどに声を掛けていただき、一緒になって取り組んでいきたい。

【市民】

・今度、社会保障推進改革法というのが通っている。この内容では70歳から74歳の窓口負担が1割から2割に変わり、通院ごとに100円から200円程上乗せされ、3ヶ月ぐらいで病院から追い出され、風邪は対象外になり国保税の大幅値上げになるとある。これについて市は知らされているのか。また、70歳以上の医療費を無料にしてほしい。

・市営住宅が老朽化していると思う。また、公共施設に太陽光発電を設置して欲しい。

<市長>

・社会保障改革等に関する情報は知らされており、それに対応する施策も検討しなければならないと考えている。いただいた意見については今後の参考としたい。